



紀平真理子のオランダ通信

第11回

養鶏場システム Rondeel (1)

プロフィール

1985年、愛知県名古屋市生まれ。南山大学外国語学部スペインラテンアメリカ学科卒業後、コンタクトレンズメーカーで国内・海外業務に携わる。夫の駐在帯同で2011年12月からオランダのアムステルダム市に在住。父の家庭菜園を見て農業に興味を持っていたこともあり、すべてにおいて実利的で交渉上手なオランダ人によるオランダ式農業に魅了されたという。

ある日、アムステルダムの外れにドーム型の「Rondeel」と書いてある看板を掲げた養鶏場を見つけた。同時に、スーパーマーケットでRondeelで採卵された卵が販売されていることに気づく。再度訪問して話を聞いてみると、Rondeelはワーニンゲン大学、ワーニンゲン大学リサーチセンター、Ministry of Agriculture, Nature and Food Quality（農業・自然・食品安全省）と政府関連セクターであるVerantwoorde veehouderij（畜産業を社会的に受け入れてもらうためのプロジェクトを敢行）、また政府関連機関のみならず、温度管理、集卵システムなど養鶏場開発に特化したオランダのリーディングカンパニーVenogグループ、環境保護団体などによって実施されている新しい養鶏システムのプロジェクトだとわかった。



街中に突如現れたRondeelシステム。案内看板も卵型



Rondeel システムについてのイラスト説明

には3分の2がケージ飼い、残り1割は放し飼いだったが、動物愛護や鶏の健康問題、環境保全もあり、翌03年には割合が半々になった。しかし、かつての放し飼いスタイルに戻ることに本当に理想的なのか？という疑問を提起し、このプロジェクトはスタートした。

これは、鶏愛護のみを目的として行なわれるのではなく、養鶏農家の利益向上かつ社会的にも受け入れられる新しい仕組みを作ることにも注力している。現状、養鶏農家が放し飼いをためらう理由として、①野鳥から伝染病をもらう恐れがある、②失踪などで管理が困難、③ケージ飼いがより保有数が減少するためにコストがかかる、④抜け落ちた羽やほこりが生産者の健康を害する、という4点が挙げられている。その問題を解決すべく、技術、動物の管理を併せ持つハウジングユニットで、なおかつ商業的に機能し、現在より農家が利益を得ることができRondeelというハウジングシステムを開発した。すべてのセクションに屋根があり、屋外セクションもフェンスで覆われていることから、鶏は外気を浴びながらも病原菌を持った野鳥にさらされる心配がない。セクションごとに分けられた館内では衛生管理や疫病防止、糞尿の管理などが簡便だ。

今回は、Rondeel システムの内容とオランダの卵の価格について詳細を述べる。